

# チューナーにとって エンジンの極限性能を戦う 最高速はロマンだ!



## 西の名チューナー座談会 牧原道夫(トライアル) 向井敏之(HKS関西) 前川 勝(エスプリ) 沢栄一郎(オートセレクト)

—— どうも。いつもは谷田部まで来てもらってからです。今回はこちらが大阪へやってまいりました。ということ、最高速の話なんです。関西の老舗という、牧原さんでしょう。

牧原 そうやうね。別に最高速を意識したわけじゃないんだけど、雑誌にアマさんとのフアミリア・ロータリーとボルシエの走りが載った。あれが刺激になったみたい。オブションに出たのは、82年暮の大会からやっと思ふ。

向井 それからのかな。関西のチューナーが谷田部へ行きだしたのは?

—— その頃、前川さんはもうエスプリやってました?

前川 ええ、57年に作りましたからちょうど第1回大会が終わった後です。最高速やりたかったんですけど、ちょっと面白いクルマで、というわけで、FJを積んだスカイラインに目をつけたんです。

向井 うちも雑誌は見ていた。牧原くんのお店はまだ、チャレンジだったよね。しかし、うちはレースやダートラのほうだったから、自分のショップを作ってからストリートをやりたい。まだ関西はメカ・チューンばかりでしたよ。

前川 最初のFJで簡単にターボ・チューンを考えてHKSに行ったら、「そんなチューンじゃダメだ」なんていわれて、それからHKSにお世話になるようになった。

牧原 僕らが最高速やった時は、まだ関西はゼロヨン全盛だった。L型のメカ・チューンでね。走ることもたくさんあったし。テンロクとか、臨海とか、毎週、いや3日置きくらいだったかな。

—— やはり関西もゼロヨンからですか。最高速との関係はどうなってますか。

牧原 テンロクという直線も長く、ゼロヨンがゼロロクになり、ゼロイチキロなんかになっていた。最高速の勝負にもなった。10